

生活と政治をつなぐ情報紙

生活者通信

東京・生活者ネットワーク

No.273

2014.6.1

※毎月1回1日発行
※1994年5月23日第三種郵便物認可

「生活に困っているが、どこに相談したらよいかわからない」「障がいや病気、家族の問題など、どこから解決したらよいかわからない」など様々な理由で生活に困っている市民の相談窓口が今年1月、国分寺市社会福祉協議会の一角に開設されました。生活困窮者自立支援法の2015年度全国本施行に先駆けモデル事業を開始した国分寺市では、必須事業である自立相談支援事業と、任意事業の学習支援事業に取り組んでいます。

国分寺・生活者ネットワーク市議会議員 ● **いわなが やすよ** 代



34の地域生活者ネットワークが集まり政策懇談や意見交換を行う議員連絡会で、議会報告をする国分寺・生活者ネットワーク市議会議員の岩永やすよ代

■発行 東京・生活者ネットワーク
■〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階
TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274
■Eメール tokyo@seikatsusha.net
■ホームページ <http://www.seikatsusha.me>
■発行責任者 西崎光子
■定価 年間1000円・1部100円
■郵便振替口座 00130-3-18417

都 第2回都議会定例会の開催、6月10日～25日。東京都豪雨対策基本方針改定、東京都いじめ防止対策推進条例案上程。

ネット ●立川 6月15日(日)告示、22日(日)投票の立川市議会議員選挙に、現職いなはしゆみ子と新人の谷山きょう子らを擁立予定
●杉並 6月22日(日)告示、29日(日)投票の杉並区議会議員補欠選挙に、新人の、つかはら彩子を擁立予定
●品川 洗剤調査報告&学習会「子どもの健康を守る洗剤選び」6月14日(土) 14:00～16:00 荏原文化センター 講師:里見宏さん(健康情報研究センター代表) 参加費500円 主催:品川地域協議会
●武蔵野 憲法改悪反対・3駅一斉チラシまき 6月15日(日) 14:00～15:00 吉祥寺駅、三鷹駅、武蔵境駅 市民有志+市議有志
●国立 「食はいのち」の映画祭 6月28日(土) <にたち芸術小ホール「天のしずく-辰巳芳子「いのちのスープ」10:30～/15:30～『世界が食べられなくなる日』13:00～/18:00～ 前売券1000円、当日券1300円 主催:<にたち地域協議会
●東京 市民と行政の協議会「エネルギー」7月2日(水) 14:30～17:00 東京都議会・会議室 参加者:都議会議員、東京都各局担当者、市民グループ、都民 主催:(仮称)市民エネルギー推進ネットワーク

自立生活サポーター始動!

生活困窮者自立支援法モデル事業・学習支援事業を開始——国分寺

生活困窮の要因は様々な支援策を探る、広げる

自立相談支援事業の相談件数は2014年1～3月で合計58件。40～50代の相談が多くなっています。また、80代の方がご自身の子どもとの相談のために、地域包括支援センターを通して相談につながったケースも数件ありました。地域の福祉関係機関からなる支援調整会議では、うち4件の個別支援計画策定が決定。その他必要に応じて訪問・同行支援やアフターフォローが行われることになっていますが、「どこに相談したらよいかかわからない」ことが課題であればなおさら、各相談窓口や関係機関との連携により、地域に埋もれた課題を支援につなげる体制づくりが重要です。

今、社会的な課題となっっている生活困窮の要因は、失業など雇用環境のみならず、疾病や障がい、母子家庭や高齢のひとり暮らしなど様々です。また、働

学びの場の提供に留まらない子ども支援を

学習支援事業では、経済的な理由で塾に通えない家庭の子どもたちに、無料塾による学びの場が提供されています。抱えている課題やその要因は一人ひとり異なるため、学習指導という観点に留まらない「住環境が十分ではなく、家庭で学習するスペースがない」「家庭や学校に居場所がない」「将来の目標や学習意欲を失ってしまった」など子どもたちの学習・生活環境を取り巻く

き盛りの年代の生活困窮や貧困の連鎖を防止するという観点からも、就労や経済的な支援だけではなく、個々の実態に沿った多様な生活支援や社会的な孤立を支えるしくみが必要です。国分寺ネットでは、モデル事業を通して想定される以外にも必要とされる事業や地域資源を探り、本施行にむけて課題を抽出して他の自治体の参考となるよう充実していくことを求めました。

様々な課題にアプローチできる支援となるべきです。また、「家庭の経済状況を考えると進学希望を親に相談できない」など進路選択の問題に直面している高校生ならではの課題も深刻です。現在小・中学生となっている対象学年を高校生まで拡大した取り組みと、支援を必要としている子どもたちにしっかりと情報が届くような周知の工夫が必要です。

社会全体が豊かになった現代における貧困・生活困窮はことさらに孤立感を助長させます。他の家庭では普通に行えることが自分の家庭では許されず、悲しみ、怒り、絶望感を感じている子どもたち一人ひとりに寄り添った支援が求められています。国分寺市では、今後複数力所での無料塾の実施を検討していますが、1～3月に通塾につながった子どもが1名というのは残念な結果です。今後は学校とも連携しながら、個々の実情を把握した上で包括的な支援が広がるよう注視していきます。

あんでな

雑祭りハマグリ店頭調査で見えてきたこと 山下博由

日本の雑祭りには、女子の健康などを願うため蛤を食べる習慣が古くからある。近年この習慣は失われつつある一方で、大手スーパーやデパートなどでは「雑祭りハマグリ商戦」が展開、大量のハマグリがこの時期に流通する。そこで、日韓共同干潟調査団ハマグリプロジェクトチーム(山下博由代表)とアジアの浅瀬と干潟を守る会(山本茂雄代表)は、2005年から雑祭りの前後にハマグリ類の店頭調査を行ってきた。今年は47名が参加。全国から206件の情報が集まった。

雑祭りの時期に販売されているハマグリ類は、ハマグリ・チョウセンハマグリ・シナハマグリ・タイワンハマグリで、うちハマグリ・チョウセンハマグリは日本在来種で、国産のもの

販売(ハマグリ類の主な供給地:熊本県・三重県、チョウセンハマグリ類の主な供給地:九十九里沿岸)。シナハマグリは朝鮮半島西岸～中国大陸沿岸に分布する種で、多くは中国から輸入されている。我々がタイワンハマグリと呼んでいる種は台湾から輸入されているものである。流通量はシナハマグリが最も多い。今年3月1～3日の100g当り平均価格はハマグリ:427円、チョウセンハマグリ:343円、シナハマグリ:117円、タイワンハマグリ:169円。国産に比べ、シナハマグリは不当に安いように私には思われるし、海外の資源の濫用に心が痛む。また、中国産のシナハマグリを国産と表示する「産地偽装」が3件確認された。国産のハマグリでは、ここ数年「吸い物」「うしお汁」用として小型のハマグリが多く流通しており、夏の繁殖期を前に3cm前後のハマグリを乱獲することは個体群に大きな負荷を与えていることが予測される。雑祭りに蛤を食べる習慣は、特定の地域

文化や自家消費程度であったものが、近年マス・プロ化され「消費のための文化」として全国展開されている。日本在来のハマグリは、干潟の埋め立てや乱獲などによって減少し、2012年には環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に評価された。雑祭りにおけるハマグリ類の過剰な流通は、国内のみならず国外の種資源保護の観点からもコントロールが必要な局面にきていると考えられる。【貝類多様性研究所所長】



いつ・どこで・どの種類が・いくらで売られているかを調べる「雑祭りハマグリ店頭調査」に提供された東京湾産ハマグリ(左)と千葉県産チョウセンハマグリ(右)